

福岡より復興の願いを込めて

東日本大震災復興支援コンサート実施報告書

H24.12 福岡市職員音楽会実行委員会 井料田 充

福岡市職員音楽会実行委員会では、毎年、夏に福岡市職員や関係職員による自主的な演奏会「夏の思い出コンサート(福岡市職員音楽会)」を開催していますが、平成23年から東日本大震災チャリティコンサートとしても開催し、来場者等から募金をいただきました。

そこで、当実行委員会では復興支援として、その募金を東北の地で直接、お渡しするとともに、平成24年12月8日(土)被災地女川町を(石巻市は前日の地震と津波警報で演奏会は延期)を訪問し、自分たちに出来る音楽で、被災地の皆様に対して少しでもお役にたてればとの思いで演奏会を開催しました。

■平成24年12月7日:地元紙「河北新報社」へチャリティコンサート等の募金を寄付



累計 (7日現在) 6922件
7億7493万2173円

河北新報社へ 義援金を寄付した皆さま 敬称略

●七十七銀行
▽5千円 イトワタタシ
▽5千円 イトワタタシ
▽1万円 イトワタタシ
▽2万円 スガワラマサユキアソコ
▽1万円 ハヤシサチコ
▽1万円 マスコカツリ
▽20万円 ミナミナカヤマ
▽250万円 ヨウチカイ
▽250万円 フコウヒロシ ●仙台銀
▽千円 マツモトケン

●七十七銀行
▽6万4千円 軍一ゼロツクス高城親睦会1014
▽2万4千円 河北新報社事務部
▽2万4千円 西
▽2万3千5百73円 角田
▽1万円 加藤 悠一
▽1万円 小野寺 志郎
●本社
▽2万3千5百73円 角田
●職員音楽会実行委員会
▽4千円 福岡電研

亡くなった東北の方々
東日本大震災で亡くなった方々のうち、7日に新たに身元が判明し(左は次の通り)。(若手県警の発表による。敬称略)

岩手県 7日発表
▽陸前高田市 松野茂雄

銀行口座に振り込みで。手数料は七十七銀行、仙台銀行の窓口扱いは無料、ATM、ゆうちょ銀行はご負担ください。河北新報社の本社でも受け付けます(平日午前10時～午後3時)。募金は日本赤十字などを通じて被災者に届けます。

*七十七銀行本店営業部
普通口座 7921357
「3・11大震災義援金」

*仙台銀行本店営業部
普通口座 6979921
「3・11大震災義援金」

*ゆうちょ銀行
振替口座 02290-2-11111
「河北新報社 3・11大震災見舞金」



寄付について河北新報12月8日朝刊(左)と当社のHP (http://www.kahoku.co.jp/spe/spe_sys1067/20121208_01.htm)にも掲載していただきました。

津波警報 宮城県
午後5時40分ごろ 予想1m

津波到達予想 **津波! 避難!**

津波警報	宮城県	午後 5:40	1m
津波注意報	岩手県	午後 5:40	50cm
	福島県	午後 5:50	50cm
	青森県太平洋沿岸	午後 6:00	50cm
	茨城県	午後 6:00	50cm



12月7日17時18分頃にホテル9階の部屋で寛いでいた時、震度5弱の地震が発生しました。

しばらく、大きな揺れが続き、エレベータが止まったことや自室での待機等の館内放送、テレビにより「東日本大震災を思い出してください。命を守るため急いで逃げてください。」と非常に厳しい口調で避難を呼びかける緊急放送がありました。

また、テレビでは、ライブで土曜日に訪問予定の女川や石巻が放映されていました。

18時過ぎ夕食をとるために外へ出ると、何ごともなかったように市民の方々は歩いておられました。

また、仙台の冬の風物詩「光のページェント」のイルミネーション点灯式も予定とおりに行われました。

■平成24年12月8日：石巻を訪問（演奏会は前日の地震と津波警報により延期）



主催者の落合さんです。



神奈川県の人から寄付のピアノです。



この高さまで浸水



今回は延期しました。



横浜の元小学校教諭の落石さんが、私費を投じて交流拠点「コミュニティサロン ジョイナス・アイトピア」を今年6月3日にオープンされました。

開設のきっかけは震災後の4月から個人ボランティアとして石巻に来られた落合さんが、避難所から仮設住宅に移るタイミングが他の人より遅れて避難所に取り残されてしまう被災者から「こういう寂しい思いをするなら死んでしまえばよかった」という声を聞いてショックを受けたことから、人と人のつながりをコーディネートすることの重要性を痛感したことに始まったそうです。

■平成24年12月8日：女川を訪問して演奏会を開催

前日（12月7日）の地震と津波警報により、いったんは演奏会を中止としましたが、当日に集まっていた方により、演奏会を開催することができました。

なお、前日の夜に仙台空港が閉鎖となったため、ピアノの宮本さんは不参加となりました。



12月8日の演奏会場の女川町地域福祉センターです。隣接して町立病院があります。



女川の演奏会的主催者の木村さんです。歯科医師でフルート奏者です。



司会者の渡邊さんです。



フルートは井料田，ギターは馬場さんです。



木村さんと井料田によりフルート二重奏の曲を演奏しました。



左から木村さん、井料田、渡邊さん、塩見さん、馬場さん、井上さんです。



■平成24年12月8日：演奏会終了後



この高さまで浸水



(震災前の町立病院)

演奏会終了後、木村さんから3.11当時や現在の状況などのお話を伺うことができました。津波は、海拔16メートルの高台に建つ町立病院の1階床からほぼ2m近くまで押し寄せ、多くの方が犠牲となられたとのことでした。こんなに高台に建っているのにと絶句してしまいました。また、現在、人口の流出も激しく、町の復興をさらに難しくしているとのことでした。



元宿泊施設の建物が横たわっていました。こちら側が屋上に当たる部分で、モニュメントとして残すかで賛否両論あるとのことでした。

木村さんも3.11当時に避難された体育館。とても寒かったこと、震災後3日間が長かったことや水洗トイレがすぐに使えなくなったことなど貴重なお話をお聞きすることができました。(左) 木村さんと一緒に昼食をとった地魚がおいしい食事処です。(右)

『演奏会ありがとうございました』

井料田様、今晚は、先日はわざわざ女川町までいらっしやっただき大変ありがとうございました。前日の地震と津波警報で、演奏は不可能かとも思いましたが、おかげさまでとても良い演奏会になったのではないかと考えております。女川町はご覧になった通り、町の中心部はほとんど何もなくなり、人口の流出も止まらず、今後どうなっていくのか不安はありますが、残った住民の方々と協力して何とか復興をさせたいと考えております。輝望の丘コンサートもできれば長く(女川にコンサートができるホールができるまで!?)続けていければと思っております。福岡の方々に是非女川町の現状をお伝えいただき、また機会がありましたら、今度はフルメンバーでいらっしやっただければと思っております。

取り急ぎお礼申し上げますとともに、いらっしやっただいた皆様どうぞ宜しくお伝えください。

女川地区仮設歯科診療所 木村 裕

■平成24年12月9日:石巻市内



石巻市を一望できる高さ約56メートルの日和山公園からの光景です。



昨年末の紅白歌合戦で長淵剛が歌った門脇小学校です。



石巻市立病院看護師宿舎跡です。



浸水で使えなくなった新車のような乗用車が山積みとなっていました。



■平成24年12月9日：国道45号線を気仙沼へ北上途中（南三陸町）



街全体が更地となり、荒涼とした光景が続きました。



理髪屋さんはコンテナにて営業中でした。



車窓からは、木々が不自然になくなって、家屋の基礎が残っていることから、津波がこのあたりまで到達したことが推測できる光景が続きました。



途中、たまたま南三陸町伊里前商店街のイベントが開催されており、ホタテや海鮮汁を買い求めて昼食をとりました。

■平成24年12月9日：気仙沼の港湾施設



宮城県気仙沼合同庁舎跡で、液状化現象で建物が浮いた状態でした。

海岸沿いの道の駅。手前は仮設トイレです。

開催延期のお知らせ

福岡より復興の願いを込めて 2012in石巻コンサート

東日本大震災復興支援コンサート

1. 日時 平成24年12月8日(土)
午後3時30分～4時
2. 会場 ショイナス・アイトピア
石巻市中央2丁目4-18(アイトピア商店街)
3. 入場料 無料
4. 主催・お問い合わせ先
ショイナス・アイトピア 落合 早苗
電話 080-5378-7907

今回、福岡市職員の有志による復興支援の演奏会の開催に当たりご挨拶を申し上げます。
昨年三月の未曾有の大震災により、多くの貴い命が失われ、現在もなお多くの方が避難生活を余儀なくされておられます。被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、被災地の一刻も早い復興をお祈り申し上げます。

福岡市としても、被災地支援のための職員の派遣や、被災された方々への市営住宅のご提供などを継続して行っているところです。

さて、福岡市職員を中心とした「夏の思い出コンサート」は、昨年から東日本大震災チャリティコンサートとしても開催し、ご来場の多くの方々から募金をいただきました。

今回の演奏者である職員は、もちろんアマチュアの演奏家ですが、自分たちに出来る音楽で、被災地の皆様に対して少しでもお役にたてればとの熱い思いを持っておりまして、多数の皆様にご来場いただき、楽しんでいただければと思います。

最後になりましたが、本日の演奏会の開催にあたり、ご協力・ご尽力いただきました関係者のみなさまに心より御礼申し上げます。

福岡市長 高島 宗一郎

第16回音楽会

東日本大震災復興支援プロジェクト 女川に音楽を♪

女川支援プロジェクト

輝望の丘コンサート

～ 福岡より復興の願いを込めて～



1. 日時 平成24年12月8日(土)
午後1時から
2. 会場 女川町地域福祉センター2階
宮城県牡鹿郡女川町鷲神浜字堀切山51-7
3. 入場料 無料
4. 主催・お問い合わせ先
女川に音楽を 輝望の丘コンサート
女川地区仮設歯科診療所
(女川町地域福祉センター内)
電話 0225-53-3510 (歯科医師) 木村 裕

プログラム

- ♪ 「アイ・クワイ・カトル」より第1楽章／モーツァルト
(フルートとギター)
- ♪ 幻想即興曲／ショパン (ピアノ)
- ♪ アルハンブラの思い出／フランシスコ・タルレガ
(ギター)
- ♪ パッフェルベルのカノン／パッフェルベル
(フルート二重奏)
- ♪ 川の流れのように／作詞：秋元康、作曲：見岳章
(フルート&ギター)
- ♪ 故郷 (ふるさと)／作詞：高野辰之、作曲：岡野貞一
(出演者全員とご来場者の皆様とご一緒に)

出演者

■福岡市職員音楽会実行委員会

ピアノ：宮本 重人
ギター：馬場 康夫
フルート：井料田 充
合唱：井上 京子
渡邊 理恵
塩見 美恵子

■賛助出演

フルート：木村 裕
(石巻市民交響楽団員)

■福岡市職員音楽会実行委員会

当会は、福岡市役所並びに関係職場の職員の音楽を愛する仲間の会です。

毎年、夏の終わりに「夏の思い出コンサート」と題して手作りのコンサートを開催しています。

今年8月28日に開催しましたコンサートは、YouTubeで「夏の思い出コンサート 福岡市職員」で検索していただければご覧いただけます。



平成24年8月28日「第5回夏の思い出コンサート」にて

○経緯

福岡市職員音楽会実行委員会では、毎年、夏に福岡市職員や関係職員による自主的な演奏会「夏の思い出コンサート(福岡市職員音楽会)」を開催していますが、平成23年から東日本大震災チャリティコンサートとしても開催し、来場者等から募金をいただきました。

さらに、当実行委員会では、被災地を訪問して自分達のできる音楽により、復興支援に少しでも役たてればとの思いで、昨年も訪問地(会場)を探したのですが、実現することができませんでした。

今年は、女川町の木村 裕さんが、復興支援コンサートとして「輝望の丘コンサート」を女川町地域福祉センターで定期的に行われておられることをホームページで知り、メールや電話で演奏会の開催をお願いしたところ、木村さんに快く承諾をいただきました。

また、石巻市の落合 早苗さんの「コミュニティサロン ジョイナス・アイトピア」については、フェイスブックの友達のつながりにより、当会場にてコンサートを開催しているおられることを知り、電話で開催をお願いしたところ、落合さんからもご承諾をいただきました。

これにより、石巻市と女川町での演奏会の開催が決定し、「夏の思い出コンサート」のメンバーに参加を募ったところ、計6名の参加者があり実施することにしました。

なお、高島市長からも応援のメッセージをいただきました。

○平成24年12月7日(金)

福岡空港から仙台空港へ移動し、市内の地元紙「河北新報社」を訪問して「夏の思い出コンサート」等の募金を寄付しました。

仙台市内のレンタルスタジオで最後の練習をした後、ホテル9階の部屋で寛いでいたところ、17時18分過ぎに震度5弱の地震が発生しました。

しばらく、大きな揺れが続き、エレベーターが止まったことや自室での待機等の館内放送、テレビにより「東日本大震災を思い出してください。命を守るため急いで逃げてください。」と非常に厳しい口調で避難を呼びかける緊急放送がありました。

また、テレビでは、明日の訪問予定の石巻市や女川町がライブで放映されていました。

落石さんや木村さんに携帯電話をかけてもなかなかつながらず、1時間後にやっとお二人に連絡がとれ、余震の不安もあり、何よりも来場者のお気持ちを考慮して2会場とも“延期”することにしました。

しかし、折角なので翌日、予定とおりに石巻市と女川町を訪問して落石さん、木村さんにお会いする約束をしました。

なお、この地震の影響で仙台空港が閉鎖となり、仕事の都合で、19時過ぎの飛行機で福岡から仙台に来られる予定だった宮本さんが参加できなくなりました。

○平成24年12月8日(土)

翌日の朝、石巻市へ向かっている途中、女川町の主催者の木村さんから電話があり、昨晚の地震や津波で被害もなかったため、会場に隣接する施設に入所する方やご近所の方に集まっただいて演奏会を開催することにしました。

11時頃に、石巻市の「コミュニティサロン ジョイナス・アイトピア」を訪問して落合さんにお会いしました。

落合さんは、横浜の元小学校教諭で震災後に個人ボランティアとして石巻に入られ、その後に石巻市へ移り住まわれた方で、人と人を結びつける活動をされておられます。

落合さんから、震災当時の悲惨な状況や現在も震災当時の出来事で苦しんでおられる被災者がおられるなどのお話をお聞きしました。

また、昨日の地震と津波警報では、車で道路が渋滞して 3.11 の教訓が生かされていないとのことでした。

落合さんとお別れして、12時30分頃に女川町地域福祉センターに着きました。

13時から演奏会を開催して22名の方にお越しいただき無事に終演することができました。

その後、木村さんに仮設住宅や震災当時の避難所となっていた体育館などをご案内いただき、昼食をご一緒する中で、当時のことや現状などのお話をお聞きすることができました。

16時頃に木村さんとお別れして、当日に帰る予定の井上さんと馬場を石巻駅に送って、残り3名は、石巻市内の石ノ森漫画館を見学し、雪の舞う中を車で移動してホテルに入りました。

○平成24年12月9日(日)

朝、かなり雪が積もっていましたが、ホテルを出発して石巻市内の門脇地区や市内が一望できる日和山公園を訪れました。

新車のような車が山積みされた光景や石巻市立病院の看護師宿舎跡、門脇小学校跡を見ると津波の恐ろしさをあらためて感じました。

また、日和山公園から石巻市内を展望した時、あの震災時、津波により悲惨な出来事があったことを思うと切なくなりました。

その後、石巻市内を後にして国道45号線を気仙沼方面に北上しました。

車窓からは、街全体が更地となった荒涼とした光景、木々が不自然になくなって、家屋の基礎が残っていることから、津波がこのあたりまで到達したことが推測できる光景が続きました。

途中、たまたま南三陸町の商店街で復興支援のイベントが開催されていたので、ホタテや海鮮汁を買い求めて昼食をとりました。

14時頃に気仙沼に着いて港湾施設のある地区を回りましたが、ここも更地となっており復興には時間がかかるのだなど実感しました。

それから、仙台空港に向けて車を走らせて帰路につきました。

○まとめ

東日本大震災から1年9カ月が経ち、福岡において東北で地震が発生しても話題となることが少なくなっただと思います。(私自身も被災地を訪れる前まではその一人であったと思います。)

しかしながら、家屋の基礎や鉄筋がむき出しとなったビル跡などが残る荒涼とした市街地、鉄道の架橋が倒壊した光景を実際に目にした時、その津波のパワーに圧倒され、そこで多くの方が犠牲となられたこと、その更地となっている土地には多くの方々の生活の営みがあったことを思い浮かべた時、悲しくてやるせない気持ちになりました。

また、落合さんや木村さんからもいろいろな話をお聞きできたことも今回の被災地を訪問したことが大変、有意義なものとなったと思います。

被災地では、人口が集中する地区がある反面、住民の流失が止まらない町もあるなど課題も多く、復興には大変な時間がかかるのだと知ることもできました。

福岡に帰って今回の経験を振り返る時、多くの方に機会があれば、一度は被災地を訪問して現地の方々との交流を図っていただければと思いましたが、今回の音楽による復興支援について、石巻市の演奏会を延期としたこともあり、今年だけでなく今後も音楽による企画で継続していければと思いました。

最後に、この報告書が「東日本大震災復興支援コンサート」の開催にあたり、ご尽力いただきました落合さんや木村さん、その他の多くの方々のご厚意にお応えするため、私たちの体験したことは本当の一部ではありますが、福岡の職場や知人などに被災地の現状などをお伝えすることができれば幸いです。

福岡市職員音楽会実行委員会 井料田 充
(福岡市総務企画局行政部情報化推進課)